（申請書ひな形）【波浪】予想の方法

Ver.1 2024.11.29（気象庁）

赤字は「波浪の予報業務許可等の申請の手引き」[[1]](#footnote-1)の付録 波浪の予想の方法（維持管理を含む）に関する審査上のポイント（P63~）における章番号を示します。

青字は当該箇所に記すべき内容の補足事項を示します。

以下についてのより詳しい説明は、それぞれについての申請例も参照してください。

・申請例１：予測値補正手法による波浪の予想の方法

・申請例２：物理的手法による波浪の予想の方法

・申請例３：統計的手法による波浪の予想の方法

現象の予想の方法

株式会社○○

【予想の方法の概要】

予想の方法の概要をご記載ください。

【予想の方法の詳細】

1. 予想の対象

予想の対象（予報する項目、予報する波の諸元（有義波高、最大波高など）、予報の最小単位、予報期間）についてご記載ください。

1. 波浪の予想に用いる入力データ

（→1.1）

数値予報モデル（波浪モデルへの入力値とする気象・海洋モデル含む）、風向風速予報、観測データ、地形データなど、波浪の予想に用いるデータをご記載ください。自ら物理モデルを駆動する場合は、その物理モデルへの入力データの説明となります。

予想の妥当性を確認するために必要な情報（モデルのバージョン・スペック、観測施設・観測データの仕様）も説明してください。

1. 予想の方法

（→1.2）

○物理モデルを用いる手法　（→1.2.1、1.2.2）

用いる物理モデルについての説明を記載いただきます。他者が開発したモデルを駆動する場合は、そのモデルの出典元について記してください。独自モデルを使う場合はどのような知見に基づいて作成されたものであるか（論文等の出典）も示してください。スペックや設定を記した表を添えていただくと、審査がスムーズになります。

○統計モデルを用いる手法　（→1.2.3）

　用いる統計モデルについて、導出方法を記載いただきます。導出の過程で観測データを用いる場合は、観測施設・観測データの仕様も示してください。

○予測値に対して補正を施す場合　（→1.2.4）

　補正手法について、その根拠、過程を記載いただきます。

1. 予想の妥当性の確認

（→1.3）

　統計スコアや事例調査などで予想の妥当性を検証し、結果を記載してください。

1. 予報の利用にあたって留意すべき点

（→1.4）

　波浪に関する予報業務許可に付す条件[[2]](#footnote-2)として「現象の予想の精度や不確実性に関する補足事項を利用者に伝達すること。」を定めており、ここに記載する項目は利用者に伝達すべき内容となります。予想の方法に沿った内容（予報の妥当性の確認結果や考慮していない要素などを踏まえた予報の特性）を記載してください。

1. 維持管理

（→1.5）

　定期的に予想結果の妥当性を確認するための具体的な方法及びそれを踏まえた対応方針について記載してください。

７　参考文献

出典等参考文献（論文やWEBサイトのURL等）を記してください。

1. <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/minkan/tebiki/harou_tebiki.pdf> [↑](#footnote-ref-1)
2. <https://www.jma.go.jp/jma/kishou/minkan/kyoka_jouken.pdf> [↑](#footnote-ref-2)